

「第2期南砺市地域福祉計画 第4回策定委員会」 議事概要

開催日：平成28年12月9日（金）午後3時30分～午後5時00分

場 所：南砺市井波社会福祉センター 2階 研修室

出席委員 15名

南砺市民生委員児童委員協議会	得能 金市	委員長
南砺市社会福祉協議会	中山 繁實	委員長代理
富山福祉短期大学	鷹西 恒	
NPO法人南砺市医師会	森田 嘉樹	
社会福祉法人 マーシ園	亀田 真洋	
社会福祉法人 福寿会	高山 博文	
南砺市自治振興会連合会	羽馬 信夫	
南砺市老人クラブ連合会	水上 成雄	
南砺市身体障害者協会	天池 保	
南砺市手をつなぐ育成会	西部 穰	
南砺市ボランティア連絡協議会	田辺 章子	
公募委員	野嶋 京子	
公募委員	加藤 信行	
公募委員	齊藤 優華	

欠席委員 2名

南砺市連合婦人会	藤田 節子
公募委員	杉本 薫

傍聴者 なし

事務局	地域包括医療ケア部長	森田 真己
	地域包括医療ケア部担当部長	叶山 勝之
	地域包括医療ケア部次長	前川 達夫
	民生部 福祉課長	西井 隆生
	社会福祉係長	南部 英樹
	社会福祉係主査	得能 宏美
	社会福祉係主査	池田 聖子

開 会 福祉課長

午後 3 時 3 0 分～

事務局：それでは、只今より第 4 回第 2 期南砺市地域福祉計画策定委員会を開催したいと思います。開催にあたりまして、委員長より挨拶をお願いします。

挨 拶 委員長

寒い中お集まり頂きましてありがとうございます。第 3 回目の 10 月 26 日に開催したのより具体的な修正案が提案されており、いろいろと各当局が検討を加えまして、補正した所あるいは付け加えた所を提案するという事になっています。今日はその点を中心に検討を頂きたいと思えます。時間の制約もありますが、スムーズに進行を頂けるよう、お願いを申し上げまして、最初のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

事務局説明：「第 2 期南砺市地域福祉計画」の素案について

委 員：P 1 2 の高齢者数の推移の方で、10 年間の増減△6.4%の△はいらないと思えます。それと、P 2 1 の平成 24 年から平成 27 年からは、ではなく 27 年にかけては、としておけば良いかなと思えます。訂正だけです。

委員長：10 年間きざみではないという事ですね。変更の法改正をやっていますからね。

事務局：ありがとうございます。あと、P 2 1 ページの保育園の入所状況を入園状況に変えさせていただきます。

委 員：第 1 期計画の評価ですが、計画どおり進捗していると、概ね計画どおり進捗しているという 2 つの書き方があるのですが、概ねというのは大体どの位なのでしょう。それともう一つ、字句の関係ですが、P 2 9 第 1 期計画の評価で、健康づくり活動について、概ね計画どおり進捗しています。この健康づくりのこれだけが、(健康づくり活動について)という文字が入っている。後は全て、概ね計画どおり進捗しています。となっているので訂正して頂きたい。全般的に見ていたらいくつか、て・に・を・は、がおかしい。

事務局：前回お示ししました評価が A・B・C 評価になっていまして、計画どおり実施しているが A 評価、概ね計画どおり実施しているが B 評価が付いておりました。各項目であがっているもので、全部の項目に A 評価が付いているものが計画どおり実施しているとしております。B 評価が多いものは、概ね計画どおり実施しているとしています。

委員：新旧対照表の中で、P56の地域福祉サポーターの育成を養成に変えたらという事です。育成とか養成というか、社会福祉協議会で活動させて頂いているので、育成とか養成というよりも、設置の方が良いのかなという話を内部ではしていました。もしこれを変えられるというのなら、前のページのP56の1番下も直さなければいけない。連動させないといけない。どちらが良いのか悩んでいる所です。

事務局：分かりました。午前中にも修正点を聞いておりますので、そこはまた改めて修正させて頂きたいと思っております。

補足ですが、一部に指標を載せている所があります。例えば、P35の下の所でボランティアコーディネーター【H27：4名→H33：4名】これは変わらないでやっていこうという目標なのですが、1番下のボランティア活動に参加している市民の割合、目標の方がH31となっておりますが、これは総合計画の方に示している数値でございますので、ここは当計画のH33ではなくてH31までとして、総合計画が終わる年が丁度この計画の中間点になるので、そこでまた総合計画としての数値が出ますので、その段階でこの計画の数値を示したいと思っております。

委員：さっき〇〇さんが言っておられた地域福祉サポーターというのはいらっしゃるけど、もっと拡充していくのか、レベルアップするのかどのように考えていらっしゃるのですか。

委員：この中では59名を、各地区社協に2名ずつは配置して頂きたいという事でご理解頂きたい。

委員：地域福祉サポーターの皆さんもどういう事したら良いか分からないという方もいる。

委員長：介護予防・日常生活支援総合事業総合サービスBの大鋸屋地区と福野北部地区。

31自治振興会があって2自治振興会だけというのは、基本的に難しい話なのか。どうやって挺子入れするのか。介護1・2もやりたいというのならば、制度化・計画化をしていく事も入れないと、ただ補助金があると言っても、なかなかついていけない状況である。

事務局：補助金は施策を進めるためのツールに当たる事なので、当然、市・行政的な立場から言えば、行政だけでもやっていきますが、地域の方と一緒にやっていきたいというのがあります。P32の第2期計画の取り組みの方向にあります、第2期計画では、高齢者保健福祉計画に基づき、介護予防・日常生活支援総合事業を推進していきます。

これは介護予防に必要性があって、この事業がこの前の新聞に掲載されていたもので、これは全体的な計画なものですから、高齢者福祉計画の中に載せてあります。

委員長：分かりました。もっと詳しく細分化する。この辺の所で、とどめておくと、それでよろしいですか。

事務局：地域福祉計画の全体の事なので、高齢者福祉計画で別途。

委員長：別途に。そこでいくという事ですね。

委員：P46に地域とのつながりの「稀有化」とありますが。

委員長：「希薄化」でしょう。これは間違いだと思います。

委員：P44の地域福祉推進員の配置は現在どれだけいるのですか。

事務局：基本的には各自治会に1人で、100世帯以上の所は2人を基本に高齢者推進の形でやっています。それを地域福祉計画で児童から高齢者まで幅を広げてやって頂く。民生委員の配置も変わりましたので、地域で2地区まとめて1人でみて頂く地区とか、民生委員をあげていない地区もあったりして、その辺はまた民生委員を中心に集まって頂いて話をして3月までに決めて頂く。

委員長：今の所、総勢350名程。予算の取り所または箇所づけによって高齢者福祉推進員や地域福祉推進員となり、もう1つは民生委員協力委員の3つがある。南砺市の場合は地域福祉推進員。要するに地域の中で民生委員を中心とした活動の中で補助的な事も含まれている。それから、高齢者はもちろんの事、障がい者から子どもの所まで。実際、地域包括ケアシステムと出てきた時点でこれをやらなければいけなかった。ですから名称を変えてきちんとしなければ。予算をしっかりみて頂かなければいけない。

委員：サロンをやらせてもらっているが、サロンのやり方も解らないし、運営の仕方も解らないし、プログラムを組むのも大変。

委員長：教育をどんどんとやっていかないといけない。サロン活動の研修会等も一気にできない。

事務局：任命時どういう仕事をするかを民生委員と一緒に研修会をやっている所もあるのですが、1回2回で終わっている地区もあり、地区の格差があるので、その辺を次回、研修会を実施して、説明したい。

委員長：そうですね。研修を福光地域では毎年やっている訳でしょう。他の地域は3年に1回しかやっていない。

事務局：任命の時に集まって頂いて、簡単な研修会をして、年1回という所もある。

委員長：そうですね。それでは情報分析するには、やっぱり弱いかもしれませんね。何をしたら良いか分からないし。そこの所をしっかりと取り組んで頂きたい。

委員長：シルバー人材センターの支援というのは、今、どのような状況になっているのですか。現実的にはシルバー人材センターは、非力になった。公正取引委員会では活用しなさいと、また、活用すると民間からの圧力が出てきて、しぼんだ形になっているのですが、南砺市はどうですか。活発ですか。それともそれに対して需要がないからそうなったという事か。計画に書いてありますけど、支援というのはどういう事なのか。人力支援なのか財力支援なのかという事も少し。シルバー人材センターという襁だけ掛けていて、全く役に立たなかったとか、事故が起きたとか、実際にあるものですから、そこにも教育が必要なのですが、どういう形でやっているのか。「生きがいづくり」と言う観点では良いかもしれませんが、一方では民営を圧迫するという事もありますし、本当に人材を育てて出しているのかもちょっと心配。

事務局：シルバー人材センターについては、高齢者になるとフルタイムで働くというのは非常に難しい。時間の制約というのもあります。シルバー人材センターの安全性は、安全委員会で検討されておりますし、そこでは教育もされている。国の補助金を受けてシルバー人材センターを運営されている訳ですが、一部の部分も市の補助をしてという事でもあります。どうしても定年が65歳の関係から、会員数は減少傾向にありまして、厳しい所もありますし、業務派遣でしか出来ない様な事業を請け負いでやっているのが問題でもありまして、業務的にはあるが、運営的には厳しい。

委員長：やはり、事業としてやっていくには可哀相なところもある感じがする。

事務局：現役世代もサポートする事業も委託されていますし、介護関係も女性部という形で立ち上げようとしていまして、介護予防の助成金等もやって頂ければ良いのかなと思っております。

委員：、生活支援総合事業、シルバー人材センターでやっているが、南砺市はどうか。

事務局：シルバー人材として会合に要請がきて、その事業に入って頂くことも話をしたいと思っているが、まだ具体的にやるという所まではいっておりません。

委員長：南砺市は、今、どうするのかを聞きたい。

委員：P68の福祉移動サービス車の導入促進の移動サービスとは。

委員：社会福祉協議会でやっている事業でサービスの需要が少なくなっている。今まで各支所の方で全部していたのですが、本所とか、福野・福光等いくつか集約して、今やっているが台数も縮小気味なので、ここに導入促進と書いてあるが、こういう表現で良いのかどうか悩んでいる。

委員長：現実的には需用が減っている訳でしょう。導入促進は、おかしい。

委員：あまり重い方はサービスを利用出来ません。

委員：介護の方もですね。

委員：介護3までですからね。

委員：介護4になった人は連れて行ってもらわないと大変と言われる。

委員：そういう所に手を延ばさないといけないのか、その辺ですね。

委員：重ければ重いほど、連れて行って欲しいと言われる。

委員長：重ければなお支援するのが本来の福祉なのですけど。

委員：そういう時に介助員が臨時になるとかの制約があるので、そこまでいけないという部分もある。

委員長：そうなったら、手に負えないという事もあるのですね。

委員：P19 出生数と合計特殊出生率の問題。平成18年は395人、平成27年は310人で85人減っている。5・6年前にある会合で若いお嫁さんが、「南砺市に産婦人科の医者があまりいない。私も妊娠しており、友達にも何人かいるけど、どこで子どもを産んだら良いか困っています。」という事だったのです。南砺中央病院に産婦人科が出来た。出来たのは良いけど、何カ月開いていたか、いつの間にか無くなった。P31を見ますと、出産できる産婦人科の誘致、新規開業を支援と書いてある。今、現在は、300人を切っていると思う。赤ちゃんが出来ないから産婦人科が無くなったのか、今後も増える予定が無いから、予定がないということは経営が成り立たないから産婦人科が無くなったのか。無くなったにも関わらず、また新規開業を支援と書いてあるものですから。良い事なのですが、開業されるなら長続きするようお願いしたい。母子手帳で、出産予定が解る。ただ、どこで出産されるのかは本人の自由で、南砺市としてどこの病院にしなさいとは言えない。支援については、産婦人科の誘致と他に何かを考えてあげないと、段々と若い人が逃げて行ってしまう。もう一つは、P45 成年後見人の制度や名前をアンケートで調べたら、19.7%の人が制度や名前を聞いた事はあると書いてある。これを今度50%までに上げると書いてあるのですが、2倍以上の人に周知して頂くという事は、成年後見人はこういう事をやって頂ける人ですという事を全員に知らせるのは無理な話だが、相談があった時にすぐと言える様になっていると思うのです。私は後見人になっています。最初は、任意後見人になる訳です。対象者がもし何かで倒れた場合、即、成年後見人が全財産の管理をおやりになる訳です。ただ、そう簡単にやってもらえる成年後見人はいない。弁護士さんとかに頼むと、膨大なお金が掛かると聞いているのですが、そういう事も調査して頂いて、相談された時には、そう言った成年後見人についての説明ができるようにしておいて頂きたい。そういう難しい問題なのです。

県の社会福祉協議会では成年後見人になっています。南砺市の方では、どちら様を紹介して頂くのか、分かりませんが、聞いて来られた方にはちゃんとして頂くようなマニュアルを作って頂きたいと思います。

事務局：成年後見人については、現在、策定しています南砺市障がい者福祉計画にもあります。

委員：パンフレットを見ていますと、60歳以上の方のひとり暮らしの方がどんどん増えている。60歳ではあまり問題が無いかもしれませんが、75歳～80歳でひとり暮らしになると、自分で自分のことが出来なくなった時にどこに相談に行った方が良いかと私にも相談がありました。「年を取ったら、田の世話をまかせて施設に入り、それなりの生活をしたいと思う」という話がありました。高齢者、一人暮らしの方が倒れて、3日も4日も誰も気付かない。そういう人を助けるための福祉電話が隣の石川県では普及している。南砺市も福祉電話を検討されたら良いのではないかなと思います。

す。事情を良く調べて、福祉電話をおあげして、緊急の場合ボタンを押せば、その方のメッセージが繋がり、救急車がすぐ来てくれる。それで助かった人もいる。それが無いばかりに3日も4日も倒れたままという人もいます。そういう方を無くすために、福祉電話制度を検討されてはいかがかなと思います。

事務局：緊急通報としてサービスについては、南砺市の方にもありますので、該当者の方があれば。

委員：そしたらボタンを押せばどこかに繋がる。

事務局：該当者の方は、全ての方ではないですが希望すれば。

委員：ひとり暮らしの高齢者で福祉電話が必要だという方でも、そういう制度があるという事が分からないから申請もないという事になるので、どうやって制度がある事を皆さんにお伝え出来るかを考えて頂きたい。

委員：民生委員でも色々な方に制度を紹介しています。私も経験した事があるのですが、ひとり暮らしでアパート住まいの方が、夜中の2時、3時に緊急ボタンを押されたが、鍵が掛かっていて入れない。鍵を預かっているので、夜中でも行って鍵を開けてあげたことがあり、南砺市では、実施しています。

委員：その制度があるのならいいのですが、該当する方にいかに持って頂くことが問題。

委員：該当者は持っていると思うのですが。

委員長：民間の通信会社も委託してやっていますね。南砺市も委託しているのでしょうか。

事務局：委託しています。

委員：ボランティアの事なのですが、P73第1期計画の評価で、「地域にどのようなボランティア参加できるグループがあるのか知らない」という意見がある。あるいはP109ボランティア活動を活発にするために必要なことという事で、1番目として、「だれもが取り組める活動の呼びかけ」、2番目として「活動内容の情報提供の強化」とあるのですが、普段から地域のボランティアをさせて頂いています。なかで色々な活動をして頂いて、皆さんも喜んで頂いている訳ですが、ボランティアの皆さんの高齢化・世代交代が、若い人達のグループがあまり来て頂けていない。ボランティア活動

で施設に来て頂くという流れというのは、阪神淡路大震災がございましたね。それ以降に盛んになったと感じてまいりました。その平成12年・13年・14年辺りからよく来て頂いて、それから定着して来て頂いている訳ですが、その方々の顔ぶれというのが当時のまま変わらず、次に繋がらない。私が申し上げたいのが、書き方に異論はございません。社協さんのHPで、どういうグループが登録されているのか見させて頂きました。179団体、個人でも21名いらっしゃいました。HPに団体名が表示され、活動内容が書いてある。そこから先が見たい。例えば手話コミュニティという団体があったら、その方達はどんな活動をしているのか。これから高齢の方がどんどん増えていくと思うのです。HPでは、グループの一覧表があり、どんな活動内容が見えてこない。では、そのグループの活動の様子はどこで見れば良いのだろう、あったら良いなと思いました。各団体さんも更に理解が深まるのではないかなと思った次第であります。

委員：ボランティア団体の会計をしているのですが、実際に活動しているのは半分位かなという話を昨日していました。収支の報告をしなければいけないのですが、団体全部は出ておらず、半分位だと思います。名前はいっぱいあるのですが、実際活動しているのは半分もいないと思います。城端にも70団体あるが2団体は活動していない。皆が皆活動しているかというところではない。活動内容ですけど、年に1回ボランティアフェスティバルとあって、ボランティアの活動報告をしているので、良かったら見に来てください。大体60代後半の方がボランティアに来ていらっしゃいます。もっと若い人に繋がらないかなと話しています。

委員：ボランティアの関係で、ボランティアセンターは市から委託を受けた形で社協が運営をしている。若い人になかなか繋がらないという状況は確かにあると思います。問題意識はボランティアコーディネーター担当4名、皆それぞれ持っています。本人の意思に基づいて活動に参加して頂く必要があるので、なかなか数字が上がらない状況です。もう一つ、「各グループの活動がもう少し分かったほうが参加してみようという気になる」というご意見については私どものHPのあり方、どういう制約があるかわかりませんが、より活動内容が分かるように工夫するのは私どもの仕事だろうと思っています。帰って担当の者と調整してみます。

委員長：目について、聞いた事があるのですが、目は2つあるから1つでも良いという方もおられたのですが、高齢者は目ですよ。弱ってしまっただけで体力が消耗していくとか、動けなくなったとか、足腰ももちろんの事ですが、この辺の事が、もう少し何か手当てして、こうなのだと言うものが出せないものか。地域包括ケアなので、1番大事な所ではないかなと思います。要するに介護や痴呆症については、脳がこうなると解るが、

目の現象というのは将来これが見える事と見えないという事の大変な差が出てくるのではないかなと、現実には起きているのではないかなと思うのです。〇〇委員どうでしょうか。

委員：大変難しい問題で答えようがないのですが、医療についての話が出ていますけども、まず産婦人科の問題ですが、全国的に産婦人科が全くない場所は無いのであって、どこでも不足している。ですが富山県はそういう中では非常に恵まれている。南砺市だけの範囲で考えるとだめなのですが、例えば砺波医療圏・高岡医療圏・富山医療圏の医療圏で考えると30分以内15分程で産婦人科に掛かる事が出来るという事で、各地区に必ず必要と言いつつ非常に大変だと思います。それと、段々と高齢者のひとり暮らしが増えてくる訳です。80、90歳になると、人は必ず死ぬ訳です。80、90歳でひとり暮らしという人は、私はここに居るという事を自分で発信しないといけないだろうと思います。所帯で3世代がいながら、おばあちゃんがお風呂の中で溺れていたが、次の日まで知らなかったという事も。亡くなる時はどう亡くなるのか、非常に難しい話ですけども。ひとり暮らしの老人の方は、なるべく自分でこういう状態にあるというのをいかに発信するか。「自助」・「互助」・「共助」を意識しないと成り立っていかないだろう。高齢者の車の事故がありますけども、目の手術で非常に明るくなって、車の免許も取れるというのはあるのですが、手術してどうでした？と聞くと明るくなったと、明るくなったら良いと言うけども、眩し過ぎて嫌だと。明るすぎて。それでも年を取ってくると何か落ちてくるという意識、80歳過ぎるとそろそろお迎えが来るという意識が割と少ない。80歳になっても90歳になっても100歳までというつもりでいらっしゃるのかなと思って、患者さんに100歳まで大丈夫ですよと言って喜ばれるのは非常に少ない。皆さんこんなに長生きしてどうしようという不安を抱えていらっしゃるのが見える。こういう不安を抱えているという事を他に発信する。助けに来るのを待っているのではなく、いかにそういう人が発信するか。教育というかしつけが大切ではないかと思います。目が明るくなって、皆何をしているかと言うと、テレビの前で子どものゲームを何時間も見ていると疲れると言うけど、テレビの前で座っていて目が疲れて開けられないというのは当然だろうと思いながら話を聞いている。必ずお迎えの時は来るという意識。なるべく社会に顔を出して、繋がっていくという意識が大事だなと思って、患者さんにも言っています。

委員長：政府も健康寿命を延ばしましょうと言っている。そのツールをどうするのかという事をあまり言わない。それは良いことだが、善悪論だけで言っている訳であって、医療費がかからないので、長生きする事は良い事だ。100歳まで生きても良いのだと、健康でないといけないと言っているだけで、リスクを抱えて生きているのだから、そのリスクを解除するのはどうしたら良いのか、こちらの方からも発信しないと。ど

うですかね、この辺の所。

委員：医学が進歩して、人間の寿命が伸びたという言い方をしますが、これは間違いです。昔から人間の寿命は100歳です。平均寿命は伸びてくる。明治になってワクチンで死ななくなって、人が増えてくる。医療にお金を掛けていくと平均寿命が70歳、もっとお金を掛けると80歳、今もっとお金を掛けると90歳も夢ではない。さらに40兆円の医療費関係があるけど、100歳になれば90何歳までという事もあるけど、果たしてそういうのが正常な方向かどうかという事も考えてみないといけない。ただ長生きすれば良いじゃなくて、いかに幸せだと思いき生きていけるかが大事。こういう福祉計画で色々ある訳ですから、なるべく自分でどう処理をしていくかという教育が大事だなと思いつながらみている。

委員：子育て関係の事ですが、この計画で子育て支援とか子育て家庭のことが具体的に感じられるようになればと思っています。中学生の14歳の挑戦や高校生ボランティア体験等、子ども達に色々感じさせる事業が沢山あって、すごく大事だなと思うのですが、最近、子育てに関わって感じるのが、母親の育ちを支援することも必要なのではないかな。考え方とかとらえ方とか、お母さん達も一所懸命頑張っているし、情報も沢山増えているのですが、核家族が増えて、身近にアドバイスしてくれる方がいない。ゲームを与えておけば自分の時間が増える。子育て支援というか母親育て支援。子どもと一緒に母親も育てていく。周りのサポートがない。

委員長：南砺市もやっぱり子育て戸数は増えてきているけども、2人だけでやっている状況で、情報が入らないというのは良く聞きます。昔はどこへ行っても大家族で、お節介のおじいちゃん、おばあちゃんが居て教えていたが、それも無くなりました。家族や地域で育てるとというのが皆無になってしまって、個室を与える事から始まって行って、個室を与えてそれで良いのか、個という物をどうするか、相当成長しないと個という物が出て来ない。

委員：妊婦さんの時から命を育てていくことを教える場があったら良いと思う。

委員長：保健センターで事業を展開しているでしょう。

事務局：母子手帳を渡す時に、担当の保健師を決めまして、その保健師がずっと母子を支援していきます。南砺市型ネウボラと言いまして、地域毎に保健師を配置して、不安や悩みを抱えているお母さんや、出産後育児の段階の悩みに対応している。世帯数は増えていても人口が減っている。単独の若い親御さんをどうやっていくかが問題です。

去年につくりケアをしています。

委員：保健師は体調の変化とか赤ちゃんの体の事とかを診るそういう事も大事ですが、お母さんの子育てでの変化も大事。

委員：統合保育園に子育て支援センターが出来ているでしょう。そういう所で未就園児を連れてお母さんが集まって情報交換する良い場になっていると思う。

委員長：2000年の社会補償の基礎構造改革があるのです。その時に日本の社会補償制度がものすごく変化しました。今までは、子育てがうまくいけない家を国が措置する。それが全く、措置から契約社会になった。そうすると手を挙げないと、私はこういうサービスを受けたいと言わないといけない。これは、個人情報との問題でもある。個という物を非常に大事にして来た。これは良い事なのですが、実際日本の国の今までのあり方が変わって行った。ここにどう対応していくのか、我々も考えないといけないし、行政も考えないといけない。何で民生委員は忙しいのか。をしっかりと捉えて、行政も動かなければいけないし、我々も動かなければいけない。本当に手を挙げなければだめ。放置しっぱなしですよ。どうして手をあげられないか、という状況・環境を整備するのがこれからの仕事だろうと思います。これを打ち出していないと。ここで打ち出しても意識がないと全然だめです。意識の高揚をしていかないと。良い話を頂きまして、ありがとうございます。

委員：今お話がありました、地域のお母さん方を支える会を「そくさい会」で高齢者の方への会を総合支援のデイサービス型に移行する話もありますが、富山型デイサービスのように地域の公民館単位で高齢者の方だけでなく、障がいの方とか、子育て・妊婦さんとか、そういった方が集える場があったら最高だろうと思う。NHKの特集でやってお母さんのストレスが溜まる子育て。

委員：全部ではないですが、子育てサロンみたいなものはいくつかの地区はやっています。地区単位ではなく地域単位で。

委員長：保育園の保母さんOGの方達が集まってやって頂いています。子育て支援センターにも行って頂いています。サロンを立ち上げましょうというよりも、サロンへ自分で行く。こういう物を求めたいという意識がないとだめです。与えられて当たり前だという話、自分達で求めて進歩していくという考え方がなくなってきている。自分で行くという意識を持たないとなかなか成り立ちません。世の中はもう契約社会になってしまっています。あなたは何が欲しいですか。私はこれを提供しますという

時代になってきている。これを明確にしっかりと教えていかないとだめです。新聞に行政は何をしていたのかという話が出てくる。東京都では毎日25・26人ずつひとり暮らしが死んでいく訳です。死んでいく事には間違いない。それを受け止めてどうしていくのか。手を挙げないからそうなった。我々はしたたかに生きて、今しっかりと捉えていかないと。という事で今日一所懸命審議している訳です。良い意見を頂きましてありがとうございます。

委員：地域福祉計画を越える話であります。地域福祉計画で盛り込めなかったものは市長に報告したいと思います。今後の南砺市全体の方向性に本当に良い意見です。て・に・を・はとか先程からご指摘を頂いた点、まだ抜けている点、を事務局で精査しまして委員長・副委員長にも確認を頂きたいと思います。

委員長：私の所にチェックが入っているのですが、大体全部網羅して頂いて私自身も満足しています。

委員：皆さんの意見でかなり厳しいものもありましたが、よくまとまったという感じ。

委員長：解りますよ。よく当局が色々な情報を入れて、良い計画になると思います。ここまでシビアにやっている所は他に無いです。自慢して下さい。

委員：P53のだれもが情報を理解しやすい工夫（視覚・聴覚・触覚）とありますが、知的とかは誰もが分かるようにすでに努力されているとは思いますが、情報の発信は家族のだけではなくて、理解のできない人にも。

P77防災訓練の実施ですが、減災という言葉を入れてもらえないかなと、起きた事に対して減らすという事が出来るので、例えば、避難所のダンボール。あれは、起きた時に何も無いよりは減らす事が出来るので、減災を入れて欲しい。

委員長：審議会に出ていますが、減災の話はでています。ダムをどうしようとか、道路をこうしようとか、能力を持った道路にしようという事から始まって、防げる方法はないかという考え方でやっています。AIとか情報という欄に、これから絶対に取り入れて行くべきだろうと思います。国は災害に強い国づくりをしています。福祉関係についてはどうか。全体の福祉を考えた時には、包括的にそれも含めて書き込んで頂ければ。

委員：防災兼減災とか。

事務局説明：今後の日程について

ご意見等がありましたら、事務局まで連絡をお願いします。次回の委員会ですが、委員長、委員長代理と相談して修正できる程になっていると思います。

委員長：皆様どうですか。つめきれない場合には、委員会を招集する。修正をして頂いたもので、当局とまとめていくことで了解を頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員：委員の了解を得る

挨拶 委員長代理

長時間にわたりまして、色々と貴重なご意見を賜りましてありがとうございます。委員長からも先生からお話がありましたように、最近は意識が変わってきている事は確かだろうと思います。色々な福祉に関する講演等を催したりする訳ですが、そういう中でボランティアで助けたいという思いはあるのですが、助けたい人が手を挙げられないという状況の中、今や助けられ上手という言葉が一般的になっているような、そういうような自分からの発信するようお願いしたい。そういう意識づくりをしていきたいという事でまた、色んな面で頑張っていきたいと思います。今日の策定委員会、寒い中お集まり頂きましてありがとうございました。これで集まる事は無いのかもしれませんが、寒い日がやってまいります。どうかご自愛して、良い正月をお互いに迎えたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

閉会

午後5時00分